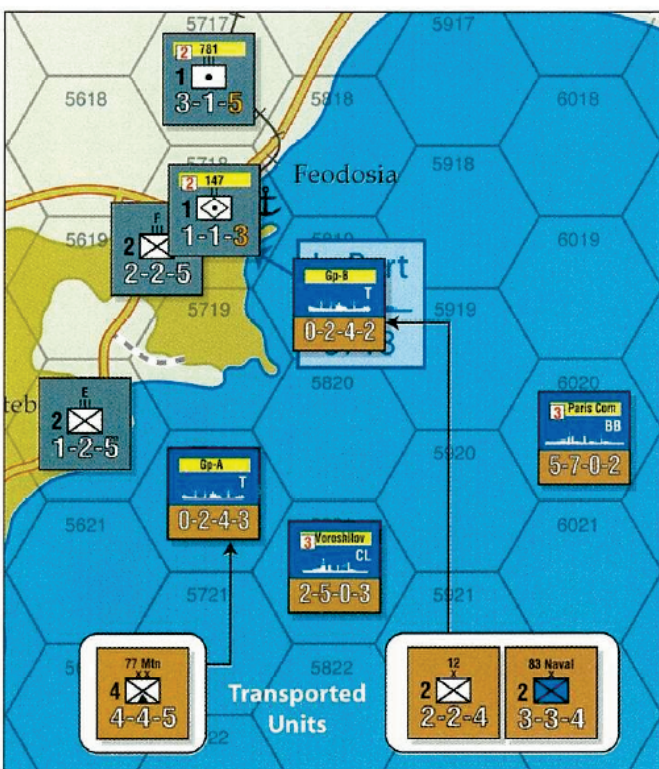


強襲上陸の例

状況：シナリオ6#：党幹部の攻撃が進行中。ソヴィエト軍プレイヤーは、Koktebel（ヘクス Q5620）と Feodosia（ヘクス Q5718）に対して強襲上陸を計画している。前のターン中、強襲上陸のために3つのユニット（第12狙撃兵旅団、第83海兵旅団、第77狙撃兵師団）が選択され、Kerch（ヘクス 6912）内にスタックして移動を終了した。

現行ターン中の天候は凍結。自動車化移動フェイズに全ての陸上移動が完了した後、各ユニットは活性化マーカーを受け取り、3個全てが輸送グループAとBに乗船することを認められている。第77山岳狙撃兵師団を持つ輸送グループAは、海上移動でKoktebelの港に隣接するヘクス5720へ移動し、2個旅団を持つ輸送グループBはFeodosiaの港に隣接するヘクス5819へ移動する。戦艦Paris Communeは、海上ヘクス6020へ移動し、CL Voroshilovは海上ヘクス5821へ移動する。



海上移動損失表の解決。シナリオの条件で述べるように、使用するコラムにかかわらず全ての損失サイ振りに+1を加えることになる。海上移動妨害ボックス内に、レベル1妨害マーカーがある。ソヴィエト軍プレイヤーは、ここで4つのサイ振りをを行う。

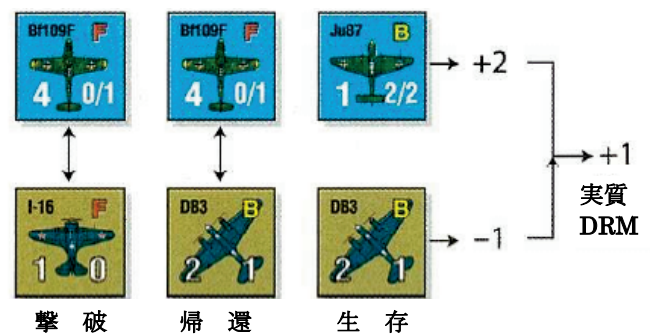
1) 射程内にある第147CDは、ヘクス5719を通過して照準線を輸送グループAへたどれないため、サイ振りは航空妨害コラム上になる。サイの目は5で、シナリオDRMのため6に修正される。結果は帰還である。輸送ユニットは1ポイントの損傷を受けたため、そのユニットは強襲上陸を行うことができる。

2) CL Voroshilovは、ドイツ軍第147CD砲兵ユニットの射程内にないため、航空妨害コラム上で+1シナリオDRMでサイを振る。DRは1で2に修正され、NE（効果なし）の結果を生み出す。

3) 輸送グループBは、強襲上陸の防御側ヘクス内にある第147CD砲兵の射程内にあるため、そのCD戦力は倍化されて2となり、サイの目に+1を提供する。サイの目修正は+2である（追加のCDポイントについて+1とシナリオDRMについて+1）。悲惨！サイの目は0（10）で、航空+CD砲兵コラムの両+2DRMを加えると結果は12（AD2）となる。輸送ユニットは、2の防護値のみを持ち、2損傷ポイントを受けなければならない。帰還を無視して3番目の損傷ポイントを受け、両旅団はあえなく海上で沈没して失われる。輸送ユニットは港に帰還する。輸送ユニットは50%異常に損傷を被ったため、輸送されたユニットは2GT移動不可マーカーを受け取る。

4) BB Paris Communeは、ドイツ軍第147CD砲兵ユニットに射程内にないため、航空妨害コラム上で+1シナリオDRMでサイを振る。DRは8で修正後に9となり、A（帰還）結果を生み出す。支援するための強襲上陸がないため、BBは帰還して港へ戻る。

強襲上陸。ソヴィエト軍の戦闘フェイズ中、宣言攻撃マーカーがKoktebelヘクスQ5620上に置かれる。1つのI16海軍戦闘機と2つのDB3海軍爆撃機航空ユニットが表を伏せてヘクス内に置かれる。枢軸軍プレイヤーは、2つのBF109戦闘機と1つのJu87爆撃機ユニットをヘクス内に置く。航空主導権のサイ振りは、射撃ユニットの戦闘を認める。ソヴィエト軍戦闘機は撃破され、2つのDB3航空ユニットの1つは帰還する。両陣営の生き残っている任務ユニットは、そのDRMsを相殺して防御側の枢軸軍に+1となる。AA射撃はない。



CL Voroshilovからの2支援ポイントで、戦闘比は6対2（3対1）。ヘクスは高地地形を含むため2番目の+1DRMを加え、枢軸軍プレイヤーは防御しているドイツ軍ユニットに退却不可命令を発令し、3番目の+1DRMを加える。サイの目は7で、10に修正される（攻撃側R*）。強襲は失敗した。強襲上陸ユニットは退却結果を無視するため、第77山岳狙撃兵師団は輸送ユニットと共に海上に留まる。強襲上陸は攻撃補給を要求されないため、アスタリスクの結果は無視される。CL Voroshilovは、港へ戻らなければならない。

ソヴィエト軍プレイヤーは、輸送ユニットと強襲上陸ユニットをその現行全海上ヘクス内に留め、次のターンに二回目の強襲上陸を試みる選択肢を持つ。輸送ユニットは、もしもその場に留まると別の海上移動損失のサイ振りを受けないことになるが、次のターンの枢軸軍艦船攻撃の主要目標となるだろう。輸送ユニットは現在1損傷ポイントを持つため、そのような攻撃で沈没する危険性は極めて高いので、輸送ユニットと被輸送ユニットも港へ戻り、海上移動損失表でサイを振らなければならない。